

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和元年11月28日

事業所名 運動療育スタジオspark豊中少路

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		待合室も確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		必ず児童1名に対し1名以上の職員を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	トイレは入居しているビルの共用トイレを使用していますので、保護者または職員が必ず同行しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		指導室・エントランスは毎日開業前に一斉清掃し、空調も毎月最低一回は入念に清掃しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全員で毎営業日に30分以上のミーティングを開催し、環境面では5S活動を推進しています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、検討して参ります
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		スパーク協会による現場OJT年5回、その他事業所内療育研修を実施しております。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントと個別支援計画とは別にも毎回ニーズ、課題、本日の療育計画という形で、療育のPDCAサイクルをまわっています。	児童の状態に応じて、保護者と連携しより密な情報交換を強化し、課題分析できた計画になるように進めて参ります。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スパーク協会独自のアセスメントシートがあり、心、体、特性傾向を確認しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		毎回ニーズ、課題、本日の療育計画という形で、療育のPDCAサイクルをまわっています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎回ニーズ、課題、本日の療育計画という形で、療育のPDCAサイクルをまわっています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達段階を大きくは9段階に分け、段階に応じた療育内容を検討しています。	個別療育を中心していますが、今後は発達段階に応じて小集団療育の強化を図ります。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
児	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		実年齢や体格だけで判断せず、発達段階に応じて個別より開始し、小集団療育参加を目標にして作成しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎営業日に30分以上の療育ミーティングを開催しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		担当療育士の事務時間や終礼時間で振り返りを実施しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		独自のサービス提供記録にて実施しています。	今後、児童の近況と保護者のニーズを細かくヒヤリングして、より効果的な療育を目指します。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		チームで検証し見直しを実施しています。	今後、より具体的な評価ができるように、目標設定の具体化、定量化を進めて参ります。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	その様な機関より問合せがあれば情報交換を行います。が、あまり実績はありません。	今後必要に応じて当事業所からも連携して参ります。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療ケアを行える従業者(医師・看護師等)を配置していないため、対象者の受入はありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	整形外科については協力医療機関があります。	医療ケアを行える従業者(医師・看護師等)を配置していないため、対象者の受入はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		今後、必要に応じて保護者の了解をとり、実施して参ります。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		今後、必要に応じて保護者の了解をとり、実施して参ります。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	必要に応じ、他事業所と成功事例の共有を電話にて行っています。	今後、連携を深めて参ります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	公園に出かけた際に他の一般児童と関われそうな場面では機会を作り、介入しています。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、連携を深めて参ります。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		基本的に保護者同伴のスタンスのため、毎回情報の共有を行っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		基本的に保護者同伴いただき、保護者の体調に合わせ、療育に参加いただいています。運動の必要性、関わり方、共に褒めるポイントづくりを行っています。	保護者より『どこまで参加して良いのか』という質問がありましたので、今一度ペアトレの目的と効果をお伝えし、参加しやすい環境をつくります。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の説明、掲示、報酬改定に合わせご説明させていただいております。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		成長速度、発達段階の変化も大きな時期であることから、個別支援計画書はもちろん、毎通所ごとに保護者とやりとりを行い、支援内容を見直しています。	引き続き保護者と近況のやりとりを密に行い、目標設定と説明を行います。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期面談以外にも、毎通所の際に実施しております。	まだまだこちらからの働きかけが不十分であり、保護者より気軽に相談できる環境ではないかと感じておりますので、保護者とのコミュニケーション機会を増やす様に努力して参ります。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	開業時には開催しましたが、積極的に機会をつくれておりません。	父母の会の実態把握に努め、当事業所に来ることがあれば可能な限りの支援を検討してまいります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		全スタッフと業務終了時に、怪我、ヒヤリハット、苦情等の確認を行い、管理者より問題・課題解決に向けて面談(電話を含む)をさせていただいております。	過去に頂いたお声の多くは、療育士の質、療育の意図、空間の使い方についてがありました。質については均等化、底上げを図るべく研修を実施して参ります。療育の意図と空間の使い方については事前説明を徹底し、相互理解に努めて参ります。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		主には屋外療育企画の意図と情報発信、または実施内容を周知して参りました。	今後、ホームページ内にブログ、掲示板等を通じて、共有することを検討中です。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		契約書等の特に重要な内容は全てルビを表記していますまた必要な児童には絵カードを用意しています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	開業時には市内の相談支援事業所様にも内覧会の案内やご説明をさせていただきました。	今後、民生委員・児童委員様との連携や、地域の行事参加など検討致します。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	職員向けのマニュアルは存在しますが、保護者向けの発信は行っておりませんでした。	今後、保護者向けの発信を行います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		土砂災害の避難勧告が発生しやすい地域であることから、風水害を中心にハザードMAPの掲示等を行いました。	今後、想定される災害の範囲を広げ訓練を行い、備蓄品についても検討します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	フェイスシートを作成し、ヒヤリングこそ実施しておりますが、食事、おやつ提供はありません。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった際には報告書を作成し、共有し・改善策を講じていますまた危険度の高い事例であれば現場検証と再発防止策を立てます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		管理者と児発管で研修を受講し、全社員へ研修を開催しました。	虐待に至らないために、障がい特性への理解、関わり方(技術)を向上させるための研修を引き続き行うとともに、保護者様との面談、ペアトレを通じ深めて参ります。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		重要事項説明、契約書にて明記しております。具体的には安全のために危険行為に至りそうな場合、抱きかかえるなどの保護の範囲です。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。